

国営沖縄記念公園 首里城正殿の供用開始日について

沖縄総合事務局では、国営沖縄記念公園首里城地区（首里城公園）において、令和元年10月31日未明に焼失した首里城の復元に取り組んでいます。

首里城正殿については、政府が決定した「首里城正殿等の復元に向けた工程表」に基づき、令和4年11月に着工し、今年秋の復元完成に向けて整備を進めています。

このたび、正殿復元に係る工事完成の見通しを踏まえ、令和8年11月22日（日）に正殿復元の完成式を開催し、11月23日（月・祝日）に正殿の供用を開始する運びとなりましたのでお知らせします。

1. 首里城正殿復元の完成式

主 催：内閣府沖縄総合事務局

開催日：令和8年11月22日（日）

場 所：首里城公園（国営沖縄記念公園 首里城地区）内

※ 詳細は決まり次第、別途お知らせします。

2. 首里城正殿の供用開始日

令和8年11月23日（月・祝日）

※ 詳細は決まり次第、首里城公園ホームページ等で別途お知らせします。

※ 首里城正殿の観覧、事前予約制チケット、正殿供用開始に伴うイベント等については、下記「総合対応窓口」にお問合せください。

<お問い合わせ>

（首里城正殿復元工事・完成式・供用開始日について）

沖縄総合事務局 開発建設部 首里城復元整備推進室

TEL 098-866-0031（代表） 担当：柳原、中山

（首里城正殿の観覧、事前予約制チケット、正殿供用開始に伴うイベント等について）

沖縄県土木建築部首里城復興課委託事業「総合対応窓口」

電話番号：050-1793-3153

Mail: info@syurijo-okil.com

- 首里城は、琉球の建築文化や技術の粋を結集した城郭で、琉球王国時代（1429～1879年）は王宮・王府として使用。1925年に正殿が国宝に指定。1945年の沖縄戦で焼失。
- 首里城復元の機運を受け、沖縄復帰記念事業として行う国営公園事業として、平成4年に正殿等を復元。平成12年に世界遺産登録。令和元年10月の火災で正殿等9棟の建物が焼失。
- 現在、首里城復元のための関係閣僚会議(議長:内閣官房長官)で決定された「首里城正殿等の復元に向けた工程表」に基づき、令和4年11月に首里城正殿の本体工事に着工し、令和8年秋の復元完成に向けて整備を推進。復元工事の過程を一般公開、情報発信する「見せる復興」を実施。

首里城の状況



首里城正殿（火災前）



▲火災直後



現在の様子（令和8年2月）▶

首里城復元のための関係閣僚会議

首里城正殿等の復元に向け、関係行政機関の緊密な連携の下、政府一体となって対応するため、首里城復元のための関係閣僚会議を開催。

第4回会議（令和2年3月27日）において「首里城正殿等の復元に向けた工程表」を決定。

首里城正殿等の復元に向けた工程表（抜粋）

前回復元時の設計・工程を踏襲することを基本とし、今般の火災を受けて、防火対策の強化及び材料調達状況の変化等の反映の観点から工程を定めることとする。

首里城正殿について、令和2年度（2020年度）早期に設計に入り、令和4年（2022年）中には本体工事に着工し、令和8年（2026年）までに復元することを目指すこととし、北殿や南殿等を含め復元に向けた取組を進めることとする。その際、復元過程の公開や観光振興など地元のニーズに対応した施策を推進する。

首里城復元のための関係閣僚会議 構成員

議長	内閣官房長官
副議長	内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策） 国土交通大臣
構成員	総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、農林水産大臣

首里城正殿等の復元に向けた工程表

(年度)

		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9 以降
正殿	材料調査 (大径材)		<u>市場調査</u>				令和2年3月27日 「首里城正殿等の復元に向けた工程表」(抜粋)			
	設計		<u>基本設計</u>							
	木材調達 (大径材)			<u>実施設計</u>						
	工事		<u>仮設道路</u> <u>がれき撤去</u>	<u>木材倉庫</u>	<u>発注手続(WTO)</u>		<u>本体工事</u>			
北殿、南殿等			<u>撤去</u>	<u>正殿復元の施工ヤードとして使用</u>						
			<u>検討</u>						<u>工事</u>	

「首里城復元に向けた技術検討委員会」での検討を踏まえた正殿の復元概要

○建築概要

建築物の名称	首里城正殿
構造形式	木造重層3階建て、入母屋造、本瓦葺
建築面積	636.56㎡
延べ面積	1199.24㎡ (1階516.86㎡、2階516.86㎡、3階165.52㎡)

○正殿の復元の主なポイント

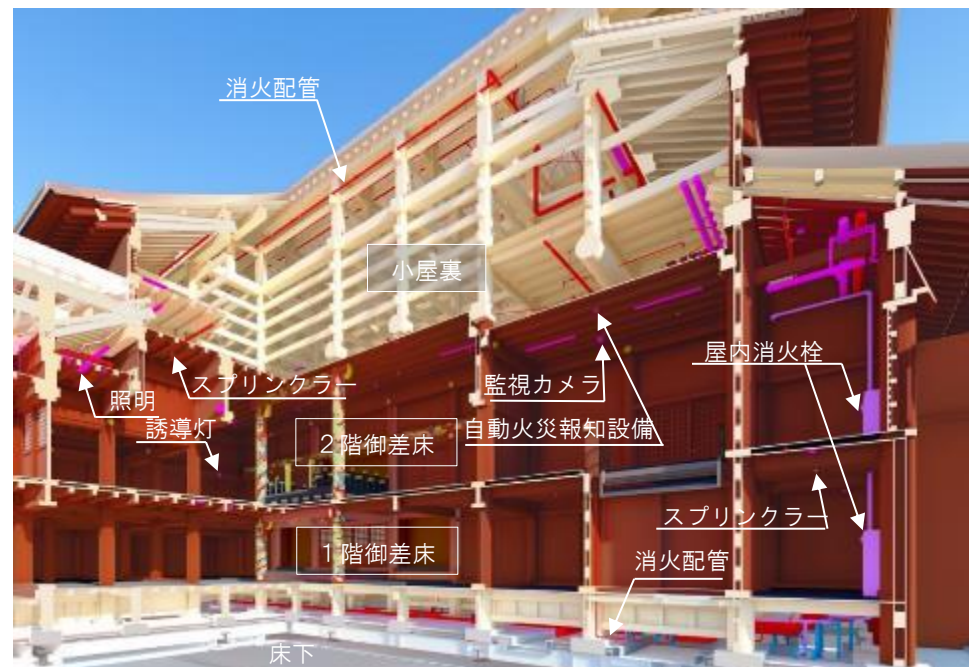
＜防火対策の強化＞

(主な防災・防火設備)

- ・ 火災感知器と連動し、自動旋回して火災を映す監視カメラ
- ・ 誤作動防止機能付のスプリンクラー
- ・ 消火用の水を城郭内に送る連結送水管
- ・ 1人でも使える易操作性の屋内消火栓
- ・ 煙の濃度に合わせ感知できるアナログ式煙感知器 等

＜材料調達の状況の変化等の反映＞

- ・ 構造材は国産ヒノキを原則とし、一部にイヌマキ、オキナワウラジロガシを使用。台湾産ベニヒを彫刻材に使用。
- ・ 赤瓦には、沖縄本島産の材料を使用するほか、一部に正殿の破損瓦を粉砕（シャモット）して再利用。
- ・ 彩色・彫刻は、塗装材に久志間切弁柄や久米赤土、石彫刻に細粒砂岩をはじめとした県産の材料を活用。



正殿内部の主な防災・防火設備



県内瓦組合で
焼き上がった赤瓦



久志間切弁柄
(試し塗りの様子)

令和8年度の首里城復元に係る取組

- 正殿本体は、令和7年7月には外観が完成。令和8年度は、引き続き内部の塗装・彩色、彫刻類の設置を進めるとともに、両廊下、仮設階段棟の整備、正殿廻りの送水管等の防火対策工事を実施。令和8年11月22日に正殿復元の完成式を開催し、11月23日より正殿を供用開始予定。
- 令和8年5月に復元が進む正殿の様子を展望できる高台見学デッキを設置する等、引き続き「見せる復興」の取組を推進。
- 正殿完成後に整備予定の北殿の実施設計を推進。

両廊下(西之廊下、南之廊下)の完成イメージ



仮設階段棟の完成イメージ



見学ルートイメージ

